

# 関東学院大学 vs 東京農業大学

4月21日(日)  
11:30K.O.  
法大G

連勝の関学大と連敗の東農大との対戦。2試合で7得点と決定力の高さを見せている関学大だが、東農大が接戦に持ち込むことはできるか。

2011年シーズンに開幕4連勝を飾って以来の首位に立った関学大。開幕から3-0、4-0と点差をつけて2連勝し、攻守のバランスが非常に良い状態だ。前節は昨季も2勝している朝鮮大と対戦し、終始ゲームを支配して危なげなく勝利した。「結果にこだわるだけでなく、内容にもこだわろうと言って試合に入った。開幕戦からの改善が見られたし、次につながるサッカーだった」(石村大監督)。主導権を握りながら先制点まで時間はかかったが、初戦で先制点をアシストしたMF山本真也(4年)が今回は先制ゴール、FW橋村圭太(2年)は2試合連続得点、FW萱沼優聖(2年)は2得点と攻撃陣が好調で、点差のついた後半は余裕を持った組み立ても見せた。2年前の開幕ダッシュに迫れるか。

対する東農大は前節、東学大と対戦して1-2で敗れた。3年ぶりの関東復帰のシーズンのスタートに手こずっている印象ではあるが、昨季1部リーグの2チームに対して1点ずつを奪っていることを考えると、今は我慢の時と言えそうだ。東学大戦は、開幕戦に続いて前半で

2失点を喫してしまった。特に、2戦とも試合開始5分で先制点を許しており、落ち着く前に失点を重ねているのが残念なところ。木村俊夫コーチも「後半に相手の速さに慣れてチャンスをつくれたので、立ち上がりの課題を修正していけばチャンスはあると思う」と話した。仮に先行されたとしても1失点に抑えて接戦に持ち込み、少しでも多くの得点機をつくり出したい。いかに少ないチャンスをモノにできるか。

<昨年の対戦>リーグ戦での対戦はなし

関学大	東農大
32. 吉田	2. 大野
9. 富樫	18. 今野
4. 久保	15. 小田原
7. 太田	6. 中垣内
10. 橋村	17. 岡庭
1. 守山	9. 相川
11. 萱沼	30. 矢口
23. 長谷川	10. 浜田
3. 土館	5. 櫻岡
8. 山本	7. 伊東
5. 山口	27. 加藤

# 法政大学 vs 拓殖大学

4月21日(日)  
13:50K.O.  
法大G

法大-拓大の対戦は1勝1敗同士の戦い。初戦を勝利した拓大と、前節で今季初勝利を挙げた法大、どちらにとっても大事な3戦目だ。

初戦をよもやの1-4という敗戦を喫した法大だったが、前節は逆に4点を奪って東海大に4-2で勝利した。しかし、前半で2点をリードしながら後半に入って6分間で同点を許すなど、まだまだ不安定感は拭えないという印象だ。ただ、大石和孝監督が「追いつかれてもバタバタせず、落ち着いてやれていた。自分たちのペースに引き戻したということは良かったと思う」と話したように、これまでであれば大量失点のパターンから攻撃でリズムを取り戻し、攻め込んで相手DFの退場を誘った。流れの中からの2点とMF西室隆規(2年)のFKから2点を奪い、昨季同様に攻撃面の怖さは見せた。しかし守備面ではミスからの失点など淡泊さもあり、引き続き課題といえそうだ。

一方の拓大は、初戦勝利のあと平国大との接戦を2-3で落とした。こちらは逆に、前半に喫した2点のビハインドを追い付いたが、後半の猛攻むなく勝ち越しを許してしまった。前半はお互いにシュートを打ち合う積極的な試合運びだったが、やや受け身に立ってしまった

印象も。「うちも相手もショートパスや3人目の動きで良いサッカーをしていた。追いついたのはよかったが、その後すぐに失点してしまうのが悪いところ」(川田尚弘コーチ)。後半は16本のシュートを放ちながら、2点を追いついた6分後に相手の後半唯一のシュートを決められるという悔やんでも悔やみ切れない敗戦。法大相手にも攻撃で主導権を握っていきたいところ。

<昨年の対戦>前期/法大2-2拓大、後期/法大0-1拓大

法大	拓大
23. 三田	16. 多田
3. 岡	26. 大森
2. 宗近	25. 紙谷
6. 星	6. 小野
9. 深町	14. 菅原
21. 田村	22. 河野
28. 西室	1. 大坪
27. 田代	7. 川崎
18. 鈴木	4. 菊野
14. 松本	29. 加藤
8. 大野	24. 谷川

\* 予想布陣は直近の試合を参考に作成しています\*

# JR 東日本カップ 2013 第 87 回 関東大学サッカーリーグ戦

**if OFFICIAL MATCHDAY PROGRAM**  
Division2 2013-NO.3

編集:五味亜矢子 印刷:関東大学サッカー連盟 協力:関東大学サッカーサポーターズクラブ



## 関学大・駒大・東国大が連勝!

JR 東日本カップ 2013 第 87 回 関東大学サッカーリーグ戦 2部リーグは第 2 節を終え、関学大と駒大、そして今季のニューフェイス・東国大が 2 連勝を飾った。朝鮮大を 4-0 で破り、唯一無失点の関学大は、得点も 2 試合で 7 得点と好調。駒大も青学大を 4-1 で下して、2 試合で 8 得点と開幕から攻撃陣が力を発揮している。他方、東国大は少ないチャンスを生かし神大に 1-0 で勝利し、初の関東リーグで旋風を巻き起こしそうな勢いを見せている。今季初勝利を挙げたのが東学大、法大、そして平国大だ。東学大は東農大を 2-1 で破り、法大は東海大に 2 点を追いつかれながら 4-2 と突き放し、平国大は拓大との接戦を 3-2 で制した。

リーグ戦序盤の流れを決める重要な 3 戦目となる今節、連敗スター

得点ランキング	アシストランキング
3: 山本 大貴 (駒大) 小牟田 洋佑 ( " ) 2: 橋村 圭太 (関学大) 萱沼 優聖 ( " ) 芦野 翔斗 (神大) 脇本 晃成 (東学大) 西室 隆規 (法大) 星子 直哉 (平国大)	2: 平野 篤志 (駒大) 恵 龍太郎 (青学大) 佐伯 拓磨 (東国大) 1: 全 23 名

トとなっている東農大、東海大、朝鮮大としてはぜひとも初勝利を挙げたいところ。一方で、駒大と東国大の連勝対決が見もの。3 連勝のスタートダッシュをかけるのはどちらか!?

## JR 東日本カップ 2013 第 87 回 関東大学サッカーリーグ戦 星取表

(第 2 節終了時)

順位	2部	関学大	駒大	東国大	神大	青学大	東学大	拓大	法大	平国大	東農大	東海大	朝鮮大	勝数	負数	得点	失点	得失差	勝点	
1	関学大		4/28	5/5	未定	5/3	5/25	未定	5/19	300	4/21	5/12	400	2	0	0	7	0	7	6
2	駒大	BMWス		4/20	5/26	401	5/19	5/5	未定	5/12	5/3	401	未定	2	0	0	8	2	6	6
3	東国大	フクアリ	駒陸		100	未定	201	5/3	4/27	5/26	未定	5/19	5/12	2	0	0	3	1	2	6
4	神大	未定	東海大G	0●1		5/6	未定	5/19	5/12	4/20	301	5/4	4/28	1	1	0	3	2	1	3
5	青学大	味フィ西	1●4	未定	三ツ沢		麻溝	5/25	401	5/19	5/11	未定	4/20	1	1	0	5	5	0	3
6	東学大	青学大G	朝鮮大G	1●2	未定	4/28		5/11	未定	5/5	201	4/20	5/3	1	1	0	3	3	0	3
6	拓大	未定	荻野	千葉東総	青学大G	青学大G	味スタ西		4/21	2●3	4/27	未定	100	1	1	0	3	3	0	3
8	法大	東海大G	未定	法大G	法大G	1●4	未定	法大G		5/3	5/5	402	5/26	1	1	0	5	6	-1	3
9	平国大	0●3	法大G	朝鮮大G	荻野	青学大G	たつのこ	302	保土ヶ谷		未定	4/28	未定	1	1	0	3	5	-2	3
10	東農大	法大G	保土ヶ谷	未定	1●3	たつのこ	1●2	法大G	たつのこ	未定		5/26	5/19	0	2	0	2	5	-3	0
11	東海大	東海大G	1●4	東海大G	荻野	未定	荻野	未定	2●4	荻野	東海大G		5/6	0	2	0	3	8	-5	0
12	朝鮮大	0●4	未定	東海大G	三ツ沢	江戸陸	江戸陸	0●1	朝鮮大G	未定	朝鮮大G	たつのこ		0	2	0	0	5	-5	0

体育会学生のための  
**リクナビ就職エージェント**

**ただ、自分に勝ちたい。**

部活と就活にエールを送る! 体育会学生のための「リクナビ就職エージェント」  
<http://job.rikunabi.com/agent/athlete/info02/>

RECRUIT

# 駒澤大学 VS 東京国際大学

4月20日(土)  
11:30K.O.  
駒陸

今節最大の注目カード、連勝同士の対決。駒大は2試合で8得点、東国大は昨年1部の東学大と神大を破った。ちなみに昨年の総理大臣杯予選では駒大が4-1と圧倒している。3連勝を飾るのはどちらか。

昨季はスタートダッシュでなかなか波に乗り切れなかった駒大。今季は攻撃力を発揮して2連勝のスタートを切った。開幕の東海大戦に続き、前節の青学大戦も4-1で勝利。秋田浩一監督は「でき過ぎだったと思うが、去年のように1点取られてからどんどん崩れていくことがなくなった」が話したように、前半から先制攻撃を仕掛け、反撃を最小限に抑えてさらに追加点を奪った。風上からロングボールを生かした結果とも言えるが、セカンドボールを支配し、前節で今季初スタメンとなったMF平野篤志(2年)らサイドの選手を起点に効果的な攻撃を仕掛けた。後半は青学大にボールを回される場面も増えただけに「すべてが良いわけではない」と秋田監督。新鋭校を相手に強さを見せることができるか。

対する東国大は、関東リーグ初挑戦でいきなり2連勝という最高のスタートを切った。前節は神大と対戦して1-0の勝利。シュート数は3-10、ボール支配率は完全に神大がまさっていたが、これは想定内でもあり、

失点を0に抑えたことが勝因だ。「初めての相手で個人のレベルが高い中で勝つためには、しっかり守って勝機をつかみたいと思った」という前田秀樹監督の意図を選手が着実に表現した。ただ、直接FKからのチャンスを確実にモノにした勝利ではあったが、「攻守の切り替えが遅かった」と前田監督。東学大、神大と異なり今節の相手の駒大は攻撃のスピードが速いだけに、いかに耐え、逆に速攻に持ち込めるかがポイントとなりそうだ。

<昨年の対戦>リーグ戦での対戦はなし

駒大		東国大	
3. 田中	11. 小牧	2. 伊東	11. 高橋
5. 伊藤	10. 山本	19. 谷口	3. 阿部
6. 若山		10. 若井	
1. 大石		21. 今野	
7. 碓井		26. 佐伯	
4. 平尾	9. 小牟田	20. 須藤	5. 川島
	17. 平野	17. 小玉	
31. 鈴木		6. 鹿糠	

# 神奈川大学 VS 平成国際大学

4月20日(土)  
11:30K.O.  
荻野

1勝1敗のチーム同士の対戦。6年ぶりの2部リーグで内容的には悪くないスタートを切った神大に対し、前節は接戦を制した平国大がどのような試合を見せるか。

初戦を危なげなく白星で飾った神大だったが、前節は東国大にワンチャンスを決められ0-1で敗れた。ボール保持率では完全にゲームを支配していたが、得点を決め切ることができず、セットプレーから奪われた1点が決勝点となった。負ける場合はこのパターン、という予想もあったのか、高峯弘樹監督は「うちが点を取るか取らないかの違いだけ。2部ではこのような試合が増えると思うので、いかに点を取るかを考えないといけない」と話した。ゴールキックも4本で、ほとんど攻められたシーンはなかっただけに痛い敗戦ではあるが、「22試合の中の1試合なので悲観していない」と高峯監督。1部ではほとんど経験のない「引かれた時の戦い方」も必要となろうが、決定力の高さを見せていきたいところ。

対する平国大は前節、拓大に3-2で勝利した。前半はお互いに攻め合う一進一退の展開の中で、チャンスを生かした平国大が2点を先制したが、後半に入るとペースが一転、拓大に猛攻を許してしまった。結果的にはワンチャンスを生かして勝ち越し、初戦で無得点に終わっ

た攻撃陣も3点は奪ったものの、内容的には拓大にシュート25本を許すなど「相手の勢いに押されて、“逃げ”に入った部分があった」と西川誠太監督は不満顔だった。それでも、「ポジティブに考えれば、勝ち切ることができたのは去年にない部分だと思う」と(西川監督)。初勝利まで8試合を費やした最初のシーズンに比べ、まずは2節で今季初白星を飾った。今節は内容を伴った勝利を得られるか、主導権を握る時間帯をできるだけ多くしたい。

<昨年の対戦>リーグ戦での対戦はなし

神大		平国大	
3. 高木	22. 伏木	16. 増田	
2. 柿崎	14. 芦野	15. 鈴木	2. 須藤
16. 前田		6. 本田	
1. 松田		8. 増田	1. 小池
		18. 星子	
7. 長野		5. 鎌田	
5. 杉山	9. 郡司	33. 福嶋	
	8. 須郷	9. 堀越	
6. 秋山		13. 竹内	

# 朝鮮大学校 VS 青山学院大学

4月20日(土)  
11:30K.O.  
江戸陸

連敗スタートとなってしまった朝鮮大と、初戦勝利のあと敗戦を喫ってしまった青学大との対戦。昨季はお互い大量得点もあった対戦だけに、いかに失点を少なく抑えるかも勝敗の鍵を握りそうだ。

まず朝鮮大だが、初戦を惜敗したあと前節は関学大に0-4で敗れた。前半は風上に立ち、積極的に攻撃を仕掛ける姿勢は見られたが、結果的にはシュートを2本しか打てずじまい。「試合の入りは悪くなかったが、関学大の集中したDF陣を崩し切れなかった。前へ急ぎ過ぎた部分があった」と(金載東監督)。相手ボールを奪ってから素早い仕掛けを目指す朝鮮大だが、逆に前半はそれを相手にやられてしまい2失点。後半は完全に主導権を握られ、さらに2点を追加されてしまった。「狙ってボールを奪った後の攻撃は、精度を上げなければならない」と(金監督)。12チームで唯一、まだ無得点だけに、まずは早めに得点を奪いたい。

一方の青学大は、初戦は4-1、前節は1-4というまったく逆のスコアの結果となった。前節は駒大との対戦。前線からのプレスと、ロングボールを生かした駒大の攻撃にリズムをつかめず、特に前半は守備に奔走した。後半は徐々に青学大らしいパス回しからの攻撃が見られ

るようになり、53分に1点を返したが、セットプレーからさらに2点を許して反撃はならなかった。「総じて力負けという印象。圧倒される時間帯をきちんと凌げるようにならなければいけない」と、宮崎純一監督も脱帽といった様子であった。後半のように自分たちから仕掛ける力は持っているチームだけに、「失点4を、より少なくする」(宮崎監督)ことが今節の課題だ。

<昨年の対戦>前期/朝鮮大1-3青学大、後期/朝鮮大5-2青学大

朝鮮大		青学大	
2. 李永照	17. 高志煌	3. 早田	18. 関谷
3. 李教俊	6. 任良太	16. 京谷	28. 伊藤
1. 李在根	10. 周祐慶	34. 角宮	6. 高山
	14. 朴利基	12. 山田	
	21. 康貴成	33. 佐藤	
	22. 慎鏞紀	4. 中村	
	12. 姜光	22. 恵	
	24. 鄭壯輝	20. 服部	

# 東京学芸大学 VS 東海大学

4月20日(土)  
13:50K.O.  
荻野

1勝1敗となった東学大と、連敗スタートとなってしまった東海大との対戦。2年前の対戦は東学大の2勝だが、3連敗は避けたい東海大がどのように挑むか。

初戦で東国大によもやの敗戦を喫してしまった東学大は前節、東農大を2-1で下して今季初勝利を飾った。まず試合開始5分でセットプレー崩れから先制点を奪い、10分後にも追加点と、先制した後すぐに追いつかれた初戦の反省を生かした。「前半の戦いの組み立て方は良かった。ゴール前にスペースがある時、しっかりクロスを上げられた」と(西園聡史監督)というように、ボールを保持しながら攻めあぐねた反省点も改善が見られた。後半は相手が東学大のボール回しに慣れてきたこともあり、ボールを奪われカウンターを受ける場面も増えロスタイムには失点も。シュート数は多かっただけに、さらなる得点力も期待したい。「攻撃の時にも守備の準備を怠らないようにやっていきたい」と(西園監督)。

一方の東海大は、開幕から2試合を1-4、2-4と敗れており、失点の多さが気になる。前節は法大と対戦し、初戦で試した3バックから守備の人数を増やした4バックで挑みながら、前半で2失点を喫した。後半の立ち上がりから6分でその2点を追いつき反撃ムー

ドになりかけたが、75分に退場者を出し、直接FKを決められ流れを手放してしまった。「守備を増やしたがうまく機能しなかった。攻撃面では明るい兆しも見えたが、失点が多いのが大きな課題」と(内山秀一監督)。まずはどのようなシフトを敷いてくるか、そして東学大のパス回しをどこで分断し、自分たちの攻撃につなげるか。「守備をもう一度確認し直して臨みたい」と(内山監督)。

<出場停止>太田代飛鳥(東海大)

<昨年の対戦>リーグ戦での対戦はなし

東学大		東海大	
5. 廣木	18. 久保	37. 北原	23. 木村
2. 大里	7. 山崎	35. 溝口	8. 水野
15. 菅		11. 峯	7. 水橋
	10. 茶島	29. 椎橋	
4. 脇本	9. 岡	34. 羽毛	
	8. 佐々木	4. 湯川	17. 西村
28. 吉田		14. 塩田	